

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

| Platinum | Price   | Date      |
|----------|---------|-----------|
| Open     | 1073.30 | 2022/2/21 |
| High     | 1126.29 | 2022/2/24 |
| Low      | 1042.86 | 2022/2/25 |
| Close    | 1058.35 | 2022/2/25 |

円建て 円/グラム

| Platinum | Price   | Date      |
|----------|---------|-----------|
| Open     | 3967.00 | 2022/2/21 |
| High     | 4145.00 | 2022/2/24 |
| Low      | 3877.00 | 2022/2/25 |
| Close    | 3931.00 | 2022/2/25 |

ドル建て ドル/TOZ

| Palladium | Price   | Date      |
|-----------|---------|-----------|
| Open      | 2355.00 | 2022/2/21 |
| High      | 2705.00 | 2022/2/24 |
| Low       | 2306.00 | 2022/2/21 |
| Close     | 2369.00 | 2022/2/25 |

円建て 円/グラム

| Palladium | Price   | Date      |
|-----------|---------|-----------|
| Open      | 8723.00 | 2022/2/14 |
| High      | 9993.00 | 2022/2/14 |
| Low       | 8523.00 | 2022/2/15 |
| Close     | 8801.00 | 2022/2/18 |



ニュースエクスプレス

ロシアのウクライナ侵攻後、パラジウム価格は8%以上の上昇

ロシアのプーチン大統領は「特別軍事作戦」を承認し、ウクライナへの全面的な侵攻を開始した。ロシアの通信社インタファックスによると24日の夜、ロシア軍はウクライナ国内の数カ所を攻撃し、ロイターの記者は首都キエフでは爆発音が聞こえたとしている。西側諸国は、正当化することはできないロシア軍の攻撃に対し、団結して厳重な対処を行う決意であると発表した。

これを受けてゴールド価格は24日3%以上上昇し（最高値は1970ドル/オンス超え）、17ヶ月ぶりの高値となった。ゴールドが最後にここまで上がったのは2020年9月。安全な資産を求める動きは非常に強く、価格は大きく動いている。シルバー、プラチナ、パラジウムも同時に上がり続け、シルバーのスポット価格は4%上がって現在25.54ドル/オンス、プラチナは2.7%上がって1122ドル/オンスとなっている。ウクライナへの攻撃が激化するにつれ供給が危ぶまれるパラジウムは、特に急上昇した。

現時点ではコモディティーに関連する制裁は発表されておらず、あるとしてもどの商品が対象となるのか憶測されているのみだ。パラジウム価格はこれまでに8%上昇し現在は2680ドル/オンスを超えている。最後にここまで上がったのは昨年8月で、市場はウクライナ情勢に細心の注意を払っている。

今週初めに非常に強気だったパラジウム価格も19000ドル/オンスのラインを超え、他の貴金属の動きに追随している。

<https://www.mining.com/palladium-price-hits-6-months-high-as-russia-invades-ukraine/>

貴金属に連動した仮想通貨が登場

大手商社の三井物産グループが先週17日に、金価格に連動した仮想通貨「ジパングコイン」を立ち上げた。同社は今後も銀やプラチナに連動した仮想通貨を発行する予定とされ、仮想通貨は貴金属価格にも連動する時代となった。

法定通貨にレートで連動した仮想通貨は「ステーブルコイン」と呼ばれ、既にかなり普及している。特に米ドルに連動したテザー（USDT）は、時価総額ランキングでもベスト5に入るほど多く利用されている。

また日本ではまだないが海外取引所では株式銘柄にレートで連動させたトークンも提供されている。このように仮想通貨は他の金融資産にレートで連動したものが次々出ているが、今度は貴金属である金にレートで連動させた仮想通貨が登場した。

この通貨は「ジパングコイン（ZPG）」と呼ばれ、当面はデジタルアセットマーケット（以下、「DAM」）という取引所で個人投資家でも売買できる。発行しているのは大手商社の三井物産の子会社である三井物産デジタルコモディティーズ。そしてすでに仮想通貨交換業者として登録をしているDAMが先週17日から売買の提供を開始した。

ジパングコインは金に連動した仮想通貨なので、期待できる利益は金に投資する場合と変わらない。しかし仮想通貨である以上商品先物の金を売買する場合と違うメリット・デメリットがあると考えられる。

まずジパングコインを買うメリットは、商品先物と違って限月がないこと。商品先物は基本的には限月があるので、長期保有には向いていない。長期保有をしたければ買い替える必要がある。とはいえ現在大阪取引所で取引される金には限月がないタイプのものもある。

またジパングコインは最低500円から買えるので、かなり少額から売買できるという点もメリットになる。

そして仮想通貨であるため24時間365日売買ができる点は、他の金融商品にはないメリットだ。現在商品先物市場には夜間取引もかなり24時間取引に近づいたが、それでも取引できない時間が1日あたり数時間ある。また当然ながら土日は先物市場は開いていない。それに比べて仮想通貨のジパングコインは24時間365日市場が開いている。

一方デメリットはやはり税制になる。日本では仮想通貨売買益は総合課税の累進税率なので、株や先物の一律20%と比べると不利と言わざるを得ない。とはいえ現在金に投資する方法は先物以外にもETFなどもある。ETFなら税金は一律20%で、かつNISAも利用することができる。さらに先物のような限月もない。ETFと比べるとジパングコインを買うメリットは24時間365日取引ができることくらいになる。

しかし今後は銀やプラチナ（白金）、さらに二酸化炭素の排出権に連動した仮想通貨も発行される計画があるので、商品先物に連動した仮想通貨はまだこれから発展の余地がある。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8e9c9987a722d5b7c8bcf4a5fe915401e0c6badb>

Translated by JBMA Osawa KAZUKO



WPIC直近の活動

- 2020年末の時点で、プラチナを触媒とするプロトン交換膜(PEM)技術を使う燃料電池で走る燃料電池バスは世界で5648台。この最先端をいのは中国で、世界の94%となる5290台の燃料電池バスが中国国内を走っている。先日行われた北京冬季オリンピックでも中国の燃料電池自動車への取り組みが随所で見られた。詳しくはプラチナ豆知識「プラチナ乗せて走るバス」(2022年2月24日)をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2022/02/24>

